

PBF 定期通信 no.13

2026年6月15日発行

Practical Biosafety Forum : 生物安全実践講習会

発信元 : (一財)機能水研究振興財団 / (公財)ルイ・パストゥール医学研究センター
生物安全実践講習会 専門委員会 編集担当 堀田国元・中藤誉子
〒141-0021 東京都品川区上大崎 2-20-8 Tel: 03-5435-8501, Fax: 03-5435-8522
E-mail: pbf@fwf.or.jp
ホームページ: <https://kinousui-zaidan.wixsite.com/seibutuanzen>

2026年度年間スケジュール

8月26～27日	第8回 実践コースB	医療研修施設「ニプロ iMEP」
2027年2月下旬	第9回 実践コースB	(一財)北里環境科学センター/北里大学

● Topics ●

WHO/CDC 関連情報

薬剤耐性に関するグローバル行動計画 (GAP-AMR)

クルーズ船におけるハンタウイルス集団感染

血管内カテーテルの使用に伴う血流感染症およびその他の感染症の予防に関するガイドライン

ACIP 憲章計画の撤回

厚労省他 関連情報

麻疹の症例と発生状況

JIHS AMR 臨床リファレンスセンター

環境省 廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行規則の一部を改正する省令

<紹介>

JIHS 国立感染症研究所 市民公開講座

NITE JNLA 不確かさの評価に関するガイド登録に係る区分(第4版)

【お知らせ】

2026年度 生物安全実践講習会スケジュール

第8回実践コースB (2026年4月募集開始)

日程:2026年8月26日(水)27日(木)

会場:医療研修施設ニプロ iMEP(滋賀県)

※ご所属の同僚の方々のほか、関係する方々へも是非ご紹介ください。

ご登録情報の確認

ご登録内容(お名前・ご所属・ご住所・電話番号・E-mail アドレス)にご変更がある場合は、お手数ですが事務局までお知らせ下さい。

皆様の個人情報、当講習会個人情報保護方針に則り、適切に管理いたします。

講習会広報用動画のご案内

第3回実践コースB開催時に撮影した動画を5分間のダイジェストにまとめた動画を講習会ホームページへ掲載しております。ご所属の同僚の方々のほか関係する方々へも是非ご紹介ください。



【 WHO/CDC 関連情報 】

- ◎ WHO The World Health Assembly adopts updated Global Action Plan on Antimicrobial Resistance (2026–2036) (2026年5月25日)

[https://www.who.int/news/item/25-05-2026-the-world-health-assembly-adopts-updated-global-action-plan-on-antimicrobial-resistance-\(2026-2036\)](https://www.who.int/news/item/25-05-2026-the-world-health-assembly-adopts-updated-global-action-plan-on-antimicrobial-resistance-(2026-2036))

加盟国は第79回世界保健総会において、改訂された「薬剤耐性に関するグローバル行動計画(GAP-AMR)」2026–2036年を採択しました。これは、薬剤耐性(AMR)に対する世界的な対応における重要な節目となり、2024年の国連総会におけるAMRに関する政治宣言に含まれる主要な公約を果たすものです。

この改訂版GAP-AMRは、FAO(国連食糧農業機関)、UNEP(国連環境計画)、WHO、WOAH(国際獣疫事務局)の4機関が主導する協議プロセスを通じて策定され、加盟国や各セクターのステークホルダーが、今後10年間にわたる世界、地域、各国での協調的な取り組みを導くための包括的な「ワンヘルス」の枠組みを幅広く提供し、関与します。

- ◎ WHO Disease Outbreak News (2026年5月4日)
Hantavirus cluster linked to cruise ship travel, Multi-country

<https://www.who.int/emergencies/disease-outbreak-news/item/2026-DON599>

2026年5月2日、クルーズ船内で重度の呼吸器疾患を発症した乗客の集団発生が世界保健機関に報告されました。5月4日現在、合計7例(確定例2例、疑い例5例)が報告されており、うち3名が死亡しています。症状のある乗客から採取された追加の検査サンプルは、WHOの支援を受けて、検査のためにセネガルのダカルにあるパスツール研究所に送られています。ヒトハンタウイルス感染症は、主に感染したげっ歯類の尿、糞便、唾液との接触、または汚染された表面に触れることによって感染します。頭痛、めまい、悪寒、発熱、筋肉痛、吐き気、嘔吐、下痢、腹痛などの胃腸障害を特徴とし、その後、突然の呼吸困難と低血圧が発症します。ハンタウイルス感染症は世界的に比較的まれですが、東アジア、特に中国と韓国では、ハンタウイルス腎症候性出血熱(HFRS)は、近年発生率が低下しているものの、依然として毎年数千例の感染例を占めています。WHOは、この事象に関与した締約国に対し、ハンタウイルスによる感染症の予防と制御のため、輸送事業者と緊密に連携しながら、船内における検出、調査、報告、症例管理、感染制御、および公衆衛生管理(船舶の衛生対策を含む)の取り組みを継続するよう勧告しています。

- ◎ WHO Guidelines for the prevention of bloodstream infections and other infections associated with the use of intravascular catheters: part 2: central venous catheters

<https://www.who.int/publications/i/item/9789240121805> (2026年5月28日)

医療現場における中心静脈カテーテル(CVC)の使用に伴う血流感染症(BSI)およびその他の感染症の予防に関するエビデンスに基づいた推奨事項としてガイドラインが公表されました。本ガイドラインは、臨床医、感染予防・管理の専門家、医療システム関係者を対象としており、診療の標準化、ケアのばらつきを低減、カテーテル関連感染症のリスクの最小化を世界的に実現するための実践的な枠組みを提供することを目的としています。ガイドラインでは、無菌操作、手指衛生、医療従事者の教育と訓練、ケアバンドルの使用、監視システムなどの主要な介入を強調しています。

◎ HHS Rescinds its New ACIP Charter Plan(2026年5月19日)

<https://www.contagionlive.com/view/hhs-rescinds-its-new-acip-charter-plan>

米国保健福祉省（HHS）は、疾病対策センター（CDC）の予防接種諮問委員会（ACIP）の憲章を改訂する計画を撤回することを決定しました。提案された憲章案は、感染症やワクチン学といった従来の専門分野から離れることで、ACIPの構成と重点分野を大きく変えるものであり、公衆衛生団体や医療機関から懸念の声が上がっていました。

<参考>More than 130 organizations express alarm over proposed changes to CDC's Advisory Committee on Immunization Practices charter

<https://www.acponline.org/acp-newsroom/more-than-130-organizations-express-alarm-over-proposed-changes-to-cdcs-advisory-committee-on>

署名した130以上の医療、看護、公衆衛生、患者擁護団体は、4月9日に公表された予防接種諮問委員会（ACIP）の改訂憲章について深い懸念を表明しました。

【厚生労働省等 関連情報】

◎ 厚生労働省 国立健康危機管理研究機構 国立感染症研究所 麻しん

麻疹発生動向調査速報グラフ2026年

<https://id-info.jihs.go.jp/surveillance/idwr/diseases/measles/graph/2026/>

麻しんの発生に関するリスクアセスメント（2026年第一版）等による最近の発生動向の説明

<https://www.mhlw.go.jp/content/001696653.pdf>

厚生労働省 麻しんの現状と対策について（自治体向け説明会）

<https://www.mhlw.go.jp/content/001695737.pdf>

米国・英国をはじめ世界各地で麻しんの流行が拡大しています。日本でも感染報告が急増しており、日本国内では、6月3日（22週）に523件が報告されました。麻しんは感染力が極めて強く、適切なワクチン接種を受けていなければ誰でも感染するリスクがあります。

<参考>CDC Measles Cases and Outbreaks

<https://www.cdc.gov/measles/data-research/index.html>

<https://www.cdc.gov/measles/hcp/clinical-overview/stay-alert-for-measles-cases.html>

米国では2000年、12か月間麻しんの感染が確認されなかったことを受け、「麻しん排除国」の認定を受けました。しかしながら近年再び流行し始め、2026年6月4日現在、米国では2,030件の麻疹確定症例が報告されています。

◎ 国立健康危機管理研究機構 国立国際医療センター AMR 臨床リファレンスセンター

◆ 静岡県東部で発生したVREアウトブレイク事例への対応

<https://amr.jihs.go.jp/case-study/029.html>

静岡県東部で発生したVRE（バンコマイシン耐性腸球菌）アウトブレイク事例における国立感染症研究所の支援の実態です。国の機関として、どのような立場からどのような支援を行ったのか。介入までの経緯や支援の実態などについて、同研究所薬剤耐性研究センター第四室室長の山岸拓也先生にお話を伺いました。

VREのような厄介な耐性菌の問題は、1つの病院だけで抱え込めるものではありません。こうした外部のリソースを早い段階で活用し、サポートを受けること。その一歩が、感染症の拡がりを防ぎ、地域全体の患者さんを守ることに繋がります。

◎ 環境省

「廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行規則の一部を改正する省令」

https://www.env.go.jp/press/press_04498.html

感染性廃棄物処理マニュアル(令和8年4月)

<https://www.env.go.jp/content/900534354.pdf>

医療関係機関等では、産業廃棄物、事業系一般廃棄物に加え、感染性廃棄物が排出されることが想定されます。感染性廃棄物は、廃棄物の処理及び清掃に関する法律の中で特別管理廃棄物に指定されており、通常の一般廃棄物や産業廃棄物に比べ、より管理が厳しくなります。病原体を取り扱う研究機関等においては、廃棄物にどのような有害物質や感染性リスクが含まれているかを、より厳密に書面で開示・管理することが求められるようになっていきます。

医療関係機関等：

病院、診療所（保健所、血液センター等）、衛生検査所、介護老人保健施設、介護医療院、助産所、動物の診療施設及び試験研究機関（医学、歯学、薬学、獣医学に係るものに限る。）

《紹介》

◎ 感染研市民公開講座 知らなかった、感染症の「へえー、そうだったんだ！」

国立感染症研究所チャンネル【公式】

<https://www.youtube.com/channel/UCpU239nW2vW4pN-qnTeF6oQ>

令和4年～令和6年度に開催した感染研市民公開講座の講義動画が、アーカイブとして公開されています。

◎ 独立行政法人 製品評価技術基盤機構(NITE)

JNLA 不確かさの評価に関するガイド登録に係る区分: 抗菌性試験・抗ウイルス性試験(第4版 2021年改定) <https://www.nite.go.jp/data/000001824.pdf>

試験環境、試験者、試験機器、試験日の違いなどによって、測定結果にはどうしても「ばらつき(不確かさ)」が生じます。特に微生物を扱う実験は統計的な計算が難しいため、このガイドでは具体的なデータや数式(分散分析など)を用いた評価方法の事例を紹介し、各試験所が正しく不確かさを評価できるようにサポートすることを目的としています。

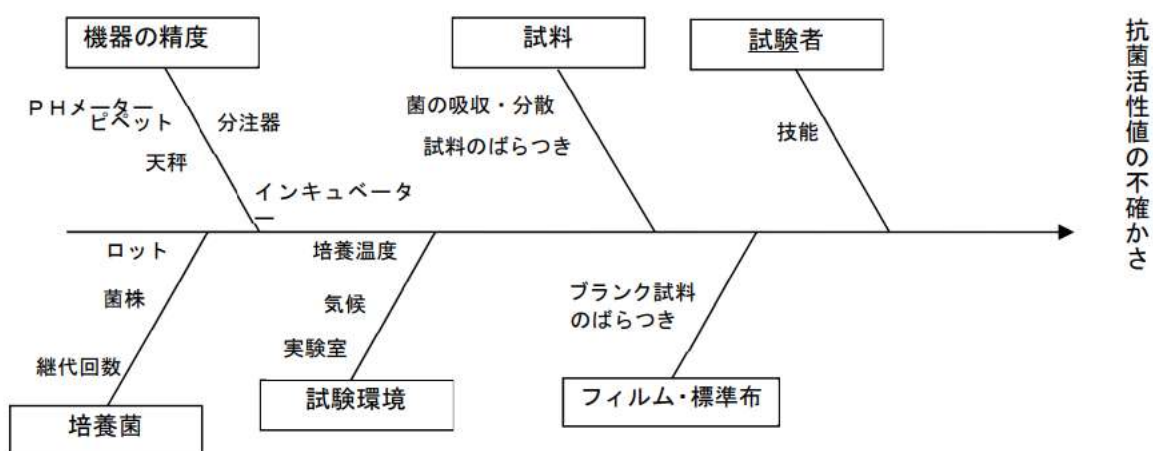


図 1-1 混積平板培養法に関する特性要因図



生物安全実践講習会

第8回 実践コースB

日程：令和8年 8月26・27日(水・木) 2日間(各日9:00~17:00)

会場：医療研修施設「ニプロiMEP」 <https://www.nipro.co.jp/corporate/imep/>

[アクセス] JR南草津駅(京都駅より新快速17分)より徒歩約3分

内容：病原体の取扱い・管理のために必要な
法令を含めた先進的知識と技術に関する座学と実習

受講料：1名 35,000円 (テキスト事前配布)

申込方法：生物安全実践講習会ホームページ「開催案内」より

<https://kinousui-zaidan.wixsite.com/seibutuanzen>



事務局：生物安全実践講習会事務局 (pbf@fwf.or.jp)



【予定プログラム概要】

区分	題目	座学講師・実習指導者
講習会概要		堀田 国元 (一財)機能水研究振興財団 理事長
座学1	感染制御概論Ⅰ-細菌・真菌-	鈴木 陽一 大阪医科薬科大学医学部生物安全実験研究室 教授
座学2	感染制御概論Ⅱ-ウイルス-	呉 成旭 (公財)ルイ・パストゥール医学研究センター主任研究員
座学3	病原体の消毒・殺菌・滅菌 および感染性廃棄物の処理	高木 弘隆 (公財)ルイ・パストゥール医学研究センター 副センター長
座学4	One Health からみた 薬剤耐性菌の現状と課題	浅井 鉄夫 岐阜大学大学院連合獣医学研究科 教授
座学5	医薬品製造における 安全対策とGMP	佐々木 次雄 元国立感染症研究所細菌第二部 室長
座学6	遺伝子組換え生物等の 利用と安全対策	辻井 栄作 京都大学総合研究推進本部研究インテグリティ部門
座学7	遺伝子関連検査と安全対策	林 邦彦 (株)池田理化 / PCR感染症検査研究会
特別講演	エアロゾル感染の概念と エアロゾル感染する病原体	藤田 直久 京都岡本記念病院感染症科部長 (元京都府保健環境研究所所長)
実習1	衛生的手洗い	恒川 良太郎 ニプロ (株)
実習2	個人防護具 (PPE) の着脱	アゼアス(株)
実習3	病原体の輸送 (梱包・開梱) および安全対策	伊木 繁雄 JIHS国立感染症研究所安全管理研究センター 主任研究官 鹿住 祐子 元結核予防会結核研究所抗酸菌部結核菌情報科 霜島 正浩 (株)スギヤマゲン
実習4	遺伝子関連検査の基本操作と 安全対策	林 邦彦 (株)池田理化 / PCR感染症検査研究会 坂倉康彦 元ロシュ・ダイアグノスティクス株式会社
実習5	安全キャビネットの構造と管理他	関口 勝美 越川和彦 (株)アルバーネット

座学

実習